



令和3年度 諏訪二葉高等学校評価表(年度末)

長野県諏訪二葉高等学校 学校評価委員会

本校の学校教育目標	1 自主 2 努力 3 感謝
中長期目標	1 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2 開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1 キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善充実により、生徒の学力向上に努める。 3 いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4 学校生活の基礎となる規律ある生活態度を育成する。 5 生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6 地域と連携し、課題解決・コミュニケーション能力を育成し、開かれた学校づくりを推進する。

評価方法 A：成果が見られた B：向上が見られた C：改善が必要である

重点目標	評価項目	評価項目と評価の観点		観点別 評価	項目 評価	成果と課題	改善策	評価
		評価	観点					
1 生徒の進路実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等を充実させ学力向上の改善策を提言する。	①	・PTAと連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を醸成し、協力関係を築いて進路実現につなげていく。 ・学校担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を開き、きめ細かい指導と情報提供を行っている進路実現の手助けをする。	B	B	・新型コロナウイルスの影響から、PTA総会中止に伴い、保護者向けに予定していた講演会が中止になったほか、夏休み前に実施していた生徒向け講演会も中止になった。「親子で学ぶ入学試験基礎講座」については、オンライン形式で実施できた。「卒業生と語る会」については、信州大学に進学した先輩を招き、1・2年生向けに行うことができた。 ・担任としては、年間予定表以外のところでも、生徒面談を行い、進路相談に限らず、きめ細かい指導を行った。	・コロナ禍という特殊な事情の中、中止せざるを得ない行事も多かった。来年度についても、実施できるか不透明であるので、オンラインでの実施を含め、可能な限り対応していきたい。また、大学研究については、WEB上で行われるものの紹介などの情報を発信していきたい。信州大学のオープンキャンパスは年間行事予定表に入れ、特に3年生については実施された場合は、参加できる環境を整えたい。	B
		②	・学習・キャリア教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディサポートや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教科と共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。	B	B	・学習キャリア係と連携してスタディサポートの結果について、ベネッセコーポレーションの担当者を招いて分析会を行った。教員間で課題を共有することができた。コロナ禍であったが、模試については計画通りに実施することができた。生徒にとっては自分の学習を振り返る機会や志望校との距離を縮める機会となっていた。	・模試については、生徒に「事前学習」と「やり直し(復習)」を指導してきた。次年度は「事前学習」を更に徹底できればと考えている。また、教員間では、生徒の課題把握に活用し、その程度分析しながら課題解決に繋げることができた。	B
	キャリア教育の充実を図る。	①	・各教科と総合的な探究の時間、ホームルーム活動を通して、社会の課題を自己との関わりから発見していく。また解決のために、主体的に探究するとともに、他者との協働により、多面的な見方や互いのよさを認め、社会に役立つことをする意欲を養う。 ・情報や情報手段を主体的に選択し活用する力を身につける。グループ学習などの対話的学びを通して、興味・関心による教科横断的・総合的な活動を行う。プレゼンテーションなどの発表力を向上させ、自分の意見を社会に発信しようとする態度を養う。 ・進路希望に応じて職場体験を行うことので、直接働いている人に接し、実際の知識や技能に触れ、自分の主体的な進路決定していく意欲や社会的役割の重要性や責任感などを培う。	B	B	・総合的な探究の時間で、1学年の1地元企業を知るでは10社に協力した。また2学年でのSDGsについての課題探究の中で、豊田終末処理場へのフィールドワークや地元行政機関への訪問など、主体的な調べ学習に加え、他者の意見や地元の実情を知ること、知識の拡大のみならず、自分の社会的役割を意識する契機となった。 ・発表の場面では、プレゼンテーションの中間発表以降、技術や表現方法についてお互い学び合い、社会への発信力を伴うものとなった。社会的課題として、これからの自分たちが主体的に行動していく意欲を感じた。(3学年) ・看護・医療体験に43人、インターンシップに8人参加したが、受け入れ先の変更するケースもあった。上諏訪中学の補習支援に15人が参加したが、コロナ感染拡大期には中止となり、体験できない者もいた。自分の適性や新	・総合的な探究の時間には、WWLの「学びのサポートリスト」の活用を図りたい。 ・上諏訪中学と、総合的な探究の時間での交流について、中学校と計画を進めたい。	B
2 生徒の学力向上に努める	生徒の学習意欲の向上を図る。	①	研究授業や授業アンケートの分析を参考に、一層の授業の充実を図る。生徒の興味・関心を引き出すことができる授業を開発していく。	B	B	研究授業は、コロナ感染拡大期と重なり、一部日程変更となった。新課程に向けて独自の研修会を企画し、教科で指導と評価を検討することを通じて、日頃の授業改善の模索につながった。	・教科会で、新課程の指導と評価やICT活用について、意見交換を重ねて、授業改善に努めたい。	B
		②	学習室、テスト前学習室等を設置し、平常の学習習慣の定着や定期考査前の学習環境・雰囲気作りにつとめる。	B	B	学習室設置は、コロナ感染拡大期に中断したが、設置することで、落ち着いた学習環境の場を提供することができた。	・今後もコロナ感染対策を生徒に実行してもらうよう呼びかけたい。	B
	生徒の学習習慣と学力の定着を図る。	①	学習実態調査等を利用して、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。	B	B	・個人面談や保護者面談を通じて、生徒の実態把握し、学年会で意見交換を図っていた。 ・年2回のスタサポによる調査と分析が有効で、生徒面談でも活用した。	常に学年会で実態把握し、必要があれば、独自にGoogleFoaamを活用して調査していく。	B
3 安心・安全な学校づくりを図る	安心・安全な教育環境を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、問題等を的確に把握し、適切に対処する。	B	B	担任、学年を中心に不登校傾向の生徒に対応した。	いじめの問題は把握したらすぐに、職員全体で共有し、対応する。不登校の問題は生徒の状態を正確に把握し、十分に家庭と連絡を取り進めたい。	B
		②	登下校時の街頭指導や距離確保を通して、交通マナーやルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように指導する。警察とも連携して登下校時の安全確保に努める。	C	B	春、秋恒例の登校指導を行った。近隣の方々より、登下校のマナーに関するご意見を頂くことが多かった。歩きスマホ、歩道からはみ出して歩く、自転車のスピードの出し過ぎ等のご意見を頂いた。	街頭指導やPRでの呼びかけを通して、生徒へ注意喚起をする。自転車に乗るとき、ヘルメットを着用するように呼びかける。	B
		③	高校生らしい頭髪・服装で学校生活が送れるよう、生活委員会からの呼びかけを積極的に行い、家庭とも連携をとりながら、理解や協力を得るように努める。	B	B	頭髪に問題がある生徒数名の指導を学年で行った。サンダルの交換を止めるよう指導をした。	頭髪や服装に問題がある生徒はほとんどいなかった。来年度も継続的に指導する。	B
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援を図る。	B	B	担任、教科担当、クラブ顧問との連携を図り、状況把握に努めた。心に悩みを抱える生徒のケアや、支援支援などSCや専門機関と連携しながら対応することができた。	支援会議を定期的に行い、更に学年を超え、情報を共有し、個々に応じた支援方法を検討する。	B
		②	生徒の発想を活かし、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係、生徒、教員の連携を図る。	B	B	日程・企画を変更して開催した。感染予防対策のため制限された中ではあったが、ライブ配信や座席の前振りなど工夫し、生徒が参加できる企画を行うことができた。	会場内の観客席の制限、企画編成、ライブ配信などは今年度の形を参考に準備するとともに、2年行っていない一般公開を行えるよう準備を進める。	B
		③	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。エコマニフェストについて、各委員会などでのようなことができないかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。	B	B	感染拡大のため年度当初の計画通りに活動できなかった委員会もあったが、各委員会活動に責任をもって取り組むことができた。	責任をもって当番活動に取り組んでいる。委員会活動、生徒会行事が充実した活動になるよう努力する。	B
5 生徒の自主性を育てる	生徒会活動の活性化を図る。	①	部活動部が円滑に運営されるよう、部長(代表者)会を開催し活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかけを行う。	B	B	クラブ長会を開催し、部室管理・練習環境の整備ができた。	練習時間厳守、練習環境整備について生徒が責任を持って活動しているようにする。	B
		②	PTA活動の充実を図る。	B	B	昨年引き続き、活動が大きく制限された。PTA総会、評議員会、環境整備、校外指導などの活動はできなかった。その中でPTA新聞、PTA冊子の発行を行い評価を得た。1学年地区懇談会は39%の出席であった。	コロナ禍でも学校と保護者との情報を密にするために、オンラインミーティングやHP、ITリモート会議などを活用し、PTA活動を円滑にする努力を続けてきた。	B
		③	地域との連携を図る。	B	B	学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。 様々な機関と連携し、生徒が探究活動を行うようにする。	学校案内の紙面の刷新により、コロナ等で学校開放できなかった。本校の活動に興味をもっといただけるような手法を検討したい。生卒の探究活動では、市役所などの公共機関や企業などの協力を得られるよう取り組みたい。	B
6 開かれた学校をつくる	広報活動の充実を図る。	①	教育活動内容をWebサイト等を通じて速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。中学校訪問を通じて中学校に学校案内を配布する。	B	B	行事が計画通り行えなかったので、Webサイトでの発信が頻繁にはできなかった。	各学年や生徒会などの係と連携し、多くの担当が、それぞれ修学旅行や体育行事などだけでなく、日頃の部活動の様子や、委員会活動なども発信できるようにしたい。	B